

## 平成18年7月分 検査結果の概要

簡略な説明のため、若干正確性を欠く面もありますが、正確には従来どおり個表をご覧ください。

### 放流水等水質調査結果（（1）表）

最終排水口での測定結果。

代表項目	項目の説明	処理目標値	測定値	コメント
塩化物イオン (mg/l)	活着期 500～700 以上、分けつ期 700～1000 以上になると、稲作に障害があるといわれている。	500 (4～8月限定)	180～330	利水時期ですが問題のない値でした。
BOD (mg/l)	数値が高いほど有機物などの汚染が進んでいる。	20	0.8～1.2	問題のない値でした。
SS (mg/l)	数値が高いほど、濁りが多い。	20	3～13	問題のない値でした。
有害物質等 (mg/l)	有害金属のカドミウム、シアン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀について調査しました。	細目協定に掲げるそれぞれの値	定量下限値未満	問題のない値でした。

地下水（シート下）と、2本の井戸水のモニタリング自動測定結果

代表項目	項目の説明	環境基準値	測定値	コメント
pH	7.0 が中性、それより高いとアルカリ性、低いと酸性を示す。		5.6～7.6	従来と変わりなく、問題のない値でした
EC (mS/cm)	溶けているイオンの種類により差異はあるが、イオンの濃度が高いたかいほど数値が大きい。		0.3～1.0	従来と変わりなく、問題のない値でした

## 公共用水域水質調査結果（（2）表）

エコパークから和島村付近まで、古志茂橋（中田川）、矢郷橋、堰橋、乙茂橋（以上島崎川）で同日に採水したものです。また古志茂橋の上流に落ちている生活排水の影響を調べる為、その排水口とそのすぐ下流からも採水しました。

代表項目	項目の説明	環境基準値	測定値	コメント
SS (mg/l)	数値が高いほど、濁りが多い。	50	15～120	長雨が続き、特に島崎川では濁りの多い状態でした。
塩化物イオン (mg/l)	活着期 500～700 以上、分けつ期 700～1000 以上になると、稲作に障害があるといわれている。		19～131 生活排水 19	各地点ともおおきな差異はなく問題のない値でした。また生活排水は 19 と低い値でした。
BOD (mg/l)	数値が高いほど有機物などの汚染が進んでいる。	5	0.5 未満～1.0 生活排水 0.5 未満	各地点ともほとんど差異はなく環境基準の範囲内で問題のない値でした。生活排水は 0.5 未満と問題のない値でした。
全窒素 (mg/l)	水中の有機物が分解される過程でいろいろな形態の窒素化合物が生成されるが、その窒素の総量。		0.87～1.9 生活排水 0.86	各地点とも差異はなく問題のない値でした。生活排水は 0.86 と問題のない値でした。環境基準はありません。なお同時に測定した硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素も環境基準の範囲内で問題のない値でした。
全燐 (mg/l)	島崎川の 3ヶ所で測定。水中に含まれる燐化合物の燐の総量。燐化合物の増加は各種排水の混入に由来する場合が多い。		0.049～0.11	問題のない値でした。

- ・ 今回の測定では生活排水に汚れは見られませんでした。

## 焼却施設ダイオキシン類調査結果（（3）表）

焼却施設から発生する排ガス・ばいじん等に含まれるダイオキシン類を測定しました。

試料名	試料の説明	処理目標値	測定値	コメント
排ガス (ng-TEQ/m <sup>3</sup> N)	煙突から排出される排ガスを煙突の途中から採取しました。	0.5	0.29	問題のない値でした。
ばいじん (ng-TEQ/g)	燃焼ガスの適正処理において捕集された微細な固形物。		1.0	基準除外の施設。問題のない値でした。
燃え殻 (ng-TEQ/g)	廃棄物の焼却後残った不燃の固形物。	3	0.84	問題のない値でした。

## 排ガス調査結果（（４）表）

廃棄物を焼却することで発生する排ガス中の物質を測定しました。」

項目	項目の説明	処理目標値	測定値	コメント
ばいじん (g/m3N)	排ガスに含まれる固体の粒子状物質	0.05	0.03 未満	問題ない値でした。
硫黄酸化物 (k 値)	排ガスに含まれる硫黄の酸化物の総称で、通称 SOx (ソックス)。	17.5	0.01 未満	問題ない値でした。
塩化水素 (mg/m3N)	塩化物や塩素を含む物質の燃焼により発生する酸性のガス。	200	180 未満 25	硝酸銀滴定法とチオシアン酸水銀( ) 吸光光度法とで並行測定し、問題のない値でした。
窒素酸化物 (ppm)	排ガスに含まれる窒素の酸化物の総称で、通称 NOx (ノックス)。	200	11	問題ない値でした。

## 地下水水質調査結果（（５）表）

3ヶ月毎にシート下地下水、4本のモニタリング井戸水を採水して総合評価したもの。

代表項目	項目の説明	環境基準値	測定値	コメント
塩化物イオン (mg/l)	水位により多少の変化はあるが、大きく変わることはない。塩分濃度の指標となる。		18~27	従来と変わりなく、問題のない値でした。
全窒素 (mg/l)	有機物を含んだ地層に水が浸透し、色々の形態の窒素化合物が地下水に溶け出してきたもの。		0.37~5.9	従来と変わりなく、問題のない値でした。
有害物質等	法で定められている全ての有害物質等（砒素などの重金属類、PCB などの有機塩素化合物、シマジンなどの残留農薬など 36 項目）について測定した。	細目協定に掲げるそれぞれの値	定量下限値未満もしくは異常のない値でした。基準の無いものも特に異常を示すものはありませんでした。	問題のない値でした。

## 埋立量年次推移（平成 11 年度から平成 17 年度までは測量実績値）

	単年度(m3)	累計(m3)	残容量(m3)
平成 11 年度	76,464	76,464	1,407,536
平成 12 年度	117,876	194,340	1,289,660
平成 13 年度	154,102	348,442	1,135,558
平成 14 年度	84,916	433,358	1,050,642
平成 15 年度	106,886	540,244	943,756
平成 16 年度	97,026	637,270	846,730
平成 17 年度	92,195	729,465	754,535
平成 18 年度（4~7 月）	29,378	758,843	725,157